

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	生活文化部
	17064	観光プロモーション推進事業	課名	地域観光課 観光交流G
	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上	財務	会計
	基本施策	04:まちづくり観光の推進	科目	01:一般会計
	施策の方向	02:観光地の魅力づくり	項目	07:商工費
戦略プロジェクト	-	目	01:商工費	
事業予定期間	H 21 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等		03:観光費

目的・概要	対象	亀山市内外の人々
	目的	より多くの方に亀山市を知ってもらい訪れてもらうため、本市が有する観光資源の掘り起こしや魅力の向上を図るとともに、様々な機会を通じて情報発信を図る。
概要		市内への観光誘客を図るため、様々な機会を捉え、地域資源を活用した体験型講座の実施を含む、地域の魅力を紹介する観光プロモーションを展開する。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
年度計画	PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR	PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR	PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR	PR効果の高い県内及び近隣県での観光PR
	県や北伊勢広域観光推進会議と連携した観光PR	三重テラス等を活用した東京オリンピック観戦客の誘客に向けたPR	三重テラス等を活用した三重とこわか国体観戦客の誘客に向けたPR	三重テラス等を活用した三重とこわか国体観戦客の誘客に向けたPR
年度実績	広域連携による大型クルーズ船の誘客に向けたPR	県や北伊勢広域観光推進会議と連携した観光PR	県や北伊勢広域観光推進会議と連携した観光PR	県や北伊勢広域観光推進会議と連携した観光PR
	地域資源を活かした体験型講座の実施	広域連携による大型クルーズ船の誘客に向けたPR	広域連携による大型クルーズ船の誘客に向けたPR	広域連携による大型クルーズ船の誘客に向けたPR
事業の計画・実績	事業費	1,200千円	1,200千円	1,200千円
	計画額			
事業費	事業費	930千円	0千円	0千円
	予算額			
決算額	事業費	913千円	0千円	0千円
	決算額			
人件費	総人件費	2,355千円	0千円	0千円
	人件費			
総コスト(+)	一般職員	2,355千円	0千円	0千円
	所要人員	0.30		
受益者負担率	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
	総コスト(+)	3,268千円	0千円	0千円
	受益者負担率	0.0%	0.0%	0.0%

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	観光プロモーション実施回数	計画値 10	10	10
			実績値 8		
			単位 回	回	回
	名称	観光案内パンフレット配布数	計画値 3,000	3,000	3,000
		観光プロモーションでの案内パンフレット配布数	実績値 1,500		
			単位 部	部	部
	名称	観光入込客数	計画値 125,000	130,000	135,000
		市内観光関連施設等への入込客数	実績値 125,112		
			単位 人	人	人

事業の改善	前回評価	<p>【前回評価の対応方針の概要を記入】</p> <p>今後の観光プロモーションは、新たな観光資源を開発と知名度向上に向けた取り組みが必要である。既存の観光地の周辺で付加価値を高める努力が必要である。具体的には、亀山7座トレイル事業を主にしたエコツーリズムの推進。一方、フィルコミッション、食の観光資源等の発信による市の知名度向上。歴史的な建物の魅力による集客に加えて、新たな訪問客の来訪が期待できる。</p>
	改善行動	<p>【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】</p> <p>エコツーリズムの推進として、名古屋でアウトドア関係会社のフェアにブース出展し、東海圏の動向調査を行った。知名度向上として、B1グランプリ全国大会に地元グルメ団体を支援したほか、三重県観光連盟と連携し、情報発信の在り方を検討した。</p>

		評価	(判定)
事業の評価	活動	<p>【計画どおりに実施できたか】</p> <p>県内及び県外交流市のイベントにて観光プロモーションを実施し、関宿を中心としたPRを行った。大型クルーズ船の誘客に関しては関宿へのオプションツアーをいただいた。B1グランプリ全国大会では入賞は逃したが、亀山市の地元グルメとして全国規模で発信が行えた。情報発信としては、市HPや観光協会HPで個々に発信している現状から、全国的にアクセス数の多い三重県観光連盟のHP「観光三重」で東海道亀山宿・関宿の特集掲載を委託して、個々の市及び観光協会HPに誘導する仕組みづくりを行った。また、商工会議所、観光協会及び市で構成する観光連携会議でもSNS発信を行った。</p>	B まずまず実施できた
	成果	<p>【成果は順調に上がったか】</p> <p>観光PRはすぐさま数値的效果が得られないものでありますが、特に情報発信で、関宿を中心に知名度向上に向けた取り組みを行ってきた結果、関宿の入込客数値の指標である玉屋歴史資料館の入込客数が増加に転じている。</p>	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	<p>【課題は何か】</p> <p>今後の観光プロモーションは、既存の観光資源だけでは訪問客増は望めなくなっているため、新たな観光資源を開発して集客を図る必要がある。また、情報発信は市や観光協会が個々に発信するのではなく、より上位の関係団体と連携して、知名度向上に向けた観光プロモーションが必要である。</p>	<input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 <p>【その他の場合、その内容を記載】</p>
	対応	<p>【課題に対し、どのように対応するか】</p> <p>様々な機会を通じて、新たな観光資源の発掘を図る。既存の観光地の周辺で、エコツーリズムの推進等、付加価値を高める努力が必要である。具体的には、亀山7座トレイル事業を主にした、トレッキング、サイクリング等のエコツーリズムの推進、一方でフィルコミッションによる映画の聖地の発信、食の観光資源等の発信により、新たな市の魅力を提案していく。また、市、観光協会、三重県観光連盟との連携を密にし、HPやSNSを通じて、より効果的な情報発信に努めていく。</p>	
	効果	<p>【対応することで、どのような効果が期待できるか】</p> <p>地名度向上により、これまで以上の訪問客が期待できるほか、トレッキング客、サイクリング客など、新たな訪問客層の来訪が期待できる。</p>	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	生活文化部 地域観光課 観光交流グループリーダー 木田博人
【最終評価者】	生活文化部 地域観光課長 木田博人

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B	B		
	成果	B	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		930千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	930千円
	令和2年度への繰越額	千円